

エコレザー対談



猪瀬氏

猪瀬 昇一氏
(株)猪瀬 取締役会長

吉村 圭司氏
(NPO)法人日本皮革技術協会 副理事長

稲次 俊敬氏
(NPO)法人日本皮革技術協会 副理事長

長年培ってきた革靴の技術で海外にも出たい。
エコレザーで業界・消費者に革製の良さ知らせる

高度成長の波に乗って
茶封筒から革バッグに

吉村 明けましておめでとうございませう。本年もエコレザー座談会のご愛読をお願いしませう。

1月号は革靴のメーカーである(株)猪瀬の取締役会長猪瀬昇一様にご登場いただきました。よろしくお願ひしませう。

早速ですが、(株)猪瀬様の創業はいつ頃でしょうか？

猪瀬 昭和27(1952)年です。私の父が、この堀切(東京・葛飾区)で創業しませう。

吉村 革靴の産業は戦後から始まったのですが、革靴はどうです

か？

猪瀬 やはり明治からですね。

最初はどこもヨーロッパの鞆・バッグの修理業から始まっています。見よう見まねで作りはじめたのですね。

吉村 鞆市場が活気づいてきたのはいつごろからですか？

猪瀬 昭和30年代からだったでしよつか。当時、サラリーマンは皆さん茶封筒を持って歩いていましたね。革靴はまだごく一部のエリートだけのものでした。

一般のサラリーマンが革靴を持つようになるようになったのは昭和50年前後からです。四角いシヨルダーバツ

グに、セカンド、ポーチなどファスナー付きの革物が、高度成長の波に乗っている出てきました。

それまではものが無かった時代だったので作れば売れました。製品を自動車に積んで問屋さんに納品に行くと、セールスの人がまだかまだかと手ぐすね引いて待っているんですよ。製品の奪い合いです。今、考えると夢みたいな時代でした。

吉村 鞆市場は、いま景気はどうですか？

猪瀬 良くないですね。消費が全体に停滞している上に、このところの異常気象の影響も大きいです。



稲次氏



吉村氏

手間とスキルで作り込み 信用度高める

吉村 革靴は非常に手の掛かる商品のようですが…。

猪瀬 靴の材料は大きく分けて革製と非革製があります。

非革というのはナイロン、クラリーノ、綿などで、「雑材」と呼ばれるものです。

革と雑材では作り方が全く違

革靴市場は雨天時は厳しい、と聞いたことがあります。革靴も同じです。雨は良くないですね。

ヨーロッパでは雨天では革靴を持ちません。降ったら濡れないようにして家へ持ち帰るんです。日本人は逆に靴を傘代わりにして頭の上に乗せて帰って行く。そのくらい考え方や文化が違います。

バブルが弾けてからは、市場が冷えて来て、今度は何を作っても売れなくなってきました。メーカーにとって非常に苦しい時代です。

メーカーというのは、定番を作り続けていけるのがベストなんですよ。

うんです。雑材にはいわゆる漉き（すき）折り返し部を薄く削って整える工程がありません。ミシンをバーツと掛けられない。

一方、メンズの革靴は、素材を漉いて張り合わせてからミシンでキチンと止めます。返し針というのです。

靴は強度も重要です。中に20〜30kgのものが入ります。それでも提げ手が抜けないようにしないといけない。そこはレディースと違うところですね。

一人前の職人になるには最低5年は掛かる。それだつてまだ職人としてはまだ半人前。ペテランはもう20年も30年もやっています。

ここでメーカーの差が出てくるわけです。あのメーカーに頼めば難しいものでもキチンとやって



葛飾区の工場(裁断工程)

くれる、といった信用が出てきます。

手間は掛かってもミシン縫いを入れたり、外から見えなくてもベルトに芯材を入れたりね。だから靴は高くなる。昔から、うちの靴は業界でも高くて有名なんですよ。

稲次 このところファッションのカジュアル化が年々進んでいます。革靴に求められるものも、やはり変わっていきますか？

猪瀬 根っこはあんまり変わってないような気がします。

もちろん新しいものは要求されますが、流行はぐるぐる回っているんです。バブルが弾けてから、型押しが増え、それが出回ったら、今度はヌメ革で昔風のクラシックな靴がいつていうわけです。

素材ではここ3〜4年間、革靴ではヌメ革でした。今はクロム革の靴が欲しい、と言われていました。クロム革の艶感のあるものがない。と言つても、昔と同じものじゃないんだだけだね。

稲次 メーカーさんは大変ですね、素材が違えば、作り方も変わ



エコマークの革で作った国産第一号ショルダー



猪瀬氏

てくるのですかね？

猪瀬 大変です。今、クロム革を使って磨いた鞆をつくって欲しいとか言われるんだけど、クロム革は磨きが出来ないから。作り方がまるっきり変わってきます。

吉村 自社ブランドの「フラスリティー」の鞆も出しておられますね。いつ頃からですか？

猪瀬 始めて10年近くになります。うちはOEMが主ですから、その中で時間を割いてそういうものを作っています。気に入った材料を使ったり、うち独特の技術を生かしたいっていうことなんです。OEMだとしても制約がありますので。

オリジナルと言っても、市場に出てね、すぐに売ればいいんですけど、なかなかね。かといって何千万円も宣伝費を掛けられませんか。

エコマークの革で 国産第一号のショルダー

稲次 素材についてお聞きしま



葛飾区の工場

す。エコレザーを使っておられますね？

猪瀬 2011年に、オリジナル「フラスリティー」のFFシリーズで日本エコレザーの認定だけでなく、環境省の主催するエコマークの認定番号を取りました。20数万円掛けてね。鞆ではうちが一番早かったんじゃないかな。ヨーロッパの製品はみんなエコの革を使っていますから。これはやって行かないといけない、と思って認定を取りました。

お見せしましょうか。これなんです(写真上)。結局、サンプル止まりで製品化までは行っていません。

あんまり先を行っても駄目なんですよ。後ろを見たら、使っているメーカーはどこもなかった。

稲次 これは姫路の革ですか？

猪瀬 姫路・たつのの革です。キップ判でしようね。肉厚でソフトで腰があるいい革です。

ヨーロッパの展示会に持っていったら、いい革だなんて言われました。向こうにはこういう材料は無いみたいですね。当時でデシ80円くらい。半裁価格の2倍近かった。日本から持っていくと、うちが1枚1万円でも売っても、メーカーに入るまでに3万円くらいになる。すると製品は10万円近い。高くて扱いきれないんです。

稲次 本当にいい革です。コンツェリア多田さんあたりのものではないかと思いますが…。

猪瀬 そうです。よく分かりますね。

稲次 キップでこの味を出せるタナーさんはなかなかないでしょう。コンツェリア多田さんは日本エコレザーの認定をこれまでにたくさん取っておられます。オナーが亡くなってから、専務さんが後を継いでいらつしゃいますね。問屋さ



んやユーザーさんから、この革は絶対続けてくれと懇願され、専務さんが新たな会社を立ち上げて技術の伝承を行っておられます。これは世界に誇れる革でしょう。

ヨーロッパ、アジアの革と戦うための日本エコレザー

稲次 どうでしょう、猪瀬さんで、再度日本エコレザーの認定を取られては？

猪瀬 エコレザーはやっていかないといけません。それは本当に思っています。皮革連(二社・日本皮革産業連合会)が一生懸命にPRしていますね。

稲次 ヨーロッパへ持って行く場合、日本エコレザー認定があると信用度が上がると聞いています。姫路の坂本商店さんが姫路黒棧革(くろごんかく)を持って向こうへ商談に行ったとき、革は大変気に入ったが、その革の健康診断書を持つてくるかって尋ねられたそうです。しかし、すぐその場で、日本工

コレザーの認定書を見せることが出来て商売ができた、と大変喜んでいただきました。

猪瀬 やはり、裏付けになるものが必要になるからね。

稲次 だからこういう良い材料を持つていくとき、認定番号を見せたら、ヨーロッパではエコ意識が高いから評価されます。

吉村 現在、新しい日本エコレザー基準認定制度も考えています。啓発を重要視してやっていかないといけません。しかし、昔に比べるとタンナーさんの意識もかなり変わって来ていますね。

稲次 タンナーさんも今のままではヨーロッパの革に勝てない、また、アジアの革にも対抗しないといけません。差別化しようということになると、日本エコレザーの認定は武器になると思います。

猪瀬 そうだね。今バングラデシユの革が安いからって、日本でもみな使いたがっているけれど、実態

は排水の垂れ流し状態でしょう。あれはエコじゃないよ。

吉村 排水施設があっても、きちんと動いていない。さらに、アフリカの革にも目が向いています。排水の垂れ流し状態が広がっていくことになりません。環境保全に責任をもつてやれる国が先頭に立っていないと。

猪瀬 洋服のようにワールマークとかあると、素材として安心できる。日本の革・革製品にもそういうものが必要ですね。

日本エコレザー、6つの条件

- ①天然皮革である
- ②発がん性染料を使用していない
- ③有害化学物質の検査をしている
(ホルムアルデヒド、重金属、PCP、禁止アゾ染料)
- ④臭気が基準値以下
- ⑤適切に管理された工場で作られた革
(排水、廃棄物が適正に管理された工場で製造)
- ⑥染色摩擦堅ろう度が基準値以上

